



医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信第 100 号

(R4/6/13)



第101回ワーキンググループ会議 (R4.5.26)

「コロナ禍における在宅医療と地域からの支え」

●話題提供者

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」
センター長/医師 中村 泰之さん

<「ふくしあ」のコロナ対応の経緯>

R2年3月(第1波)	病児・病後児保育室の一室で発熱外来開始
R2年6月 (第1波終了後すぐ)	感染外来棟「りっか」を寄贈いただき、発熱・感染症の診察開始
R2年10月末 (第2波~第3波)	感染外来でのコロナ抗原検査、在宅・施設での抗原検査開始
R3年4月中旬 ~6月第1週	施設入所の方からワクチン接種
R3年6月初め ~8月第2週	65歳以上の訪問診療患者へのワクチン接種
R3年7月末~9月末	64歳以下訪問診療患者、心身障害児(者)へのワクチン接種
R3年8月(第5波)	初のコロナ感染家族への在宅訪問診療
R4年1月(第6波)	在宅療養が増えたが、電話診察もスムーズに進むようになった 薬は薬局からのポストイン方式で対応可能になった

5月のワーキンググループ会議には56名の方が参加してくださいました。

3月から懇親会を再開させたのに合わせて、会場で参加される方が増えています。

懇親会でも皆さん楽しく活発に意見交換をされていて、このような場も大切だと感じています。



参加者の声

- ・今後、開業医一人ではなく地域を巻き込んでの診療が必要であり、そこで働く医師や医療スタッフへの支援も大切。全世代型の診療に向けて、地域としての医療資源を作っていないといけない。
- ・先生の人柄や努力に頼るだけではいけないが、制度を作ってもそれを動かすのは人である。先生の頑張っている様子が周りを動かし、同じように頑張る人が増え、それが伝播していくということも、地域医療に取り組む者たちは学ばないといけないと感じた。
- ・在宅で診ていくためには、国から指示されたことだけ対応するのではなく、地域を見て動き、生活に沿ったケアをすることが大事だと思った。
- ・「ふくしあ」のように、内科も小児科も医師が複数いる中でやっておられることは非常に力強く、そういう体制が他にも出来ると良い。
- ・コロナだけに着目しすぎるのではなく、「生き死に」ということに対してどの段階で覚悟を決めるのかということ、少し落ち着いている今の間に考えて蓄積し、次のパンデミックに備えないといけないのではないかと感じた。
- ・在宅看取りはやればできるということがわかったので、このまま維持できるのでは。そのために多職種連携が必要。
- ・コロナ禍は“在宅看取り”が多くなる人にとって身近な存在になる、大きなきっかけやチャンスの一つなのだと感じた。
- ・自宅療養の中でも、特に行動障害などの障害を持った方などは家族のケアが大切で、そういう方に対してどういうふうにサポートするかということは平時から考えていく必要があると思った。
- ・高齢者や医療的ケア児がこのような新感染症になったとき、入院の受け入れ先に難渋されたりしたと聞き、病院もすべての患者を平等に受け入れる体制をと整えるべきだと思った。今後の病床確保では、数の確保だけでなく、障がいのある人も受け入れることができる医療体制を整えなければならぬという学びになったのではないかと感じた。
- ・障がい児者や要介護者がコロナに罹患したり、家族が罹患した際の柔軟な対応についても、医療ではなく暮らしという視点で対応されていることがとても印象深く心に残った。

中村先生の感じた コロナによる影響...

自宅での看取りが増加



施設での面会ができないなら、たとえ短期間でも自宅に連れて帰りたい...

死体検案では、独居でかかりつけ医をもたない人や、通院をやめてしまった人の病死・老衰が多くなった感覚あり



医療は生活の一部であって、医療者だけで何かができるわけではない。周りの人たちに助けられ、安心して従事することができた。また、感染外来棟やPCR検査棟、マスク、防護服などたくさんの寄付もいただき、非常に感謝している。

今後、若い世代につなぐためにも、地域医療振興協会の全国組織とも交流をもちながら学んでいかなければならないと思っている。

滋賀県立総合病院 犬塚先生より

一部の方の熱意だけでやっているシステムとして全体には行き渡らないが、財源なども考えると非常に難しい問題である。

医療・福祉・行政がタッグを組んで地域で一つのチームを組み、地域で力を付けていくという中村先生の取り組みが一つの解決策なのかなと思った。

<総会・研修会のお知らせ>

8月27日(土)14時から、キラリ工草津で開催します！葛西中央病院の土谷明男院長をお迎えし、「意思決定支援を支える～新型コロナウイルス感染症下からの学び～(仮題)」というテーマでお話しいただきます。お楽しみに～！！



【次回ワーキンググループ会議】

- 日時：令和4年6月23日(木)18:30~20:00
- 場所：滋賀県庁 新館3階大会議室(Web可)
- テーマ：「コロナ禍での在宅療養、看取り支援の実践～薬剤師の立場から～」
- 話題提供者：一般社団法人滋賀県薬剤師会 常務理事 / オリーブ薬局 大西 延明さん

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)
e-mail: info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

